

所 報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第195号 令和8年1月7日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

（主な内容）

- ・ 小学校、中学校外国語教育授業参観の実施報告
- ・ 江別市初任研修の実施報告

小学校、中学校外国語教育授業参観実施報告

12月18日（木）に中央小学校で、今年度の外国語参観授業が実施されました。この取組は、各小学校の外国語教育指導協議会の代表者に参加して頂き、市内外国語教育の充実につなげていくことを目的に進められている活動になります。この交流授業に先立ち12月11日（木）には、大麻中学校でも英語参観交流授業が予定されていましたが、こちらは感染症の影響により中止となってしまいました。残念ながら授業を参観させていただくことはできませんでしたが。お忙しい中、準備を進めていただいた大麻中学校には、この場をお借りし感謝申し上げます。

中央小学校の授業は、教科担の吉川教諭とALT（外国語助手）のセリーナ 澤 ジェヴォンス氏が協力し、を用いて、欲しいもの尋ねる時の会話表現の学習を見せて頂きました。

A : What do you want ? (何が欲しいですか?)
B : I want 「 」 s. (私は「 」がほしいです)
A : How many ? (いくつ欲しいですか?)
B : 「 」, please. (「 」お願いします)
A : Here you are. (はい、どうぞ)
B : Thank you. (ありがとう)



ALTと会話に必要な単語の聞き取りに取り組む様子

学習展開は、前半で会話に必要な単語を、正しく発音で表現できるようにALT（外国語助手）が、手本を示しながら子ども達に発音を確認させ、次にその単語のスペルを、カードゲームで楽しく覚えさせる活動（書き方指導の位置づけ）が、取り入れられていきました。

学習の後半は、基本文型に単語を当てはめさせ会話文を作らせていく形で、学習が進められていきました。基本文型を定着させる表現活動では、会話の役割（A：B）を変えさせながら交流させる時に、端末のソフトを使い、注文されたものを映像から選び、タブレット上で実際に完成させていく、疑似体験的な活動を取り入れた学習が進められていきました。子ども達は、意欲的に他の子どもとの交流を進めていましたが、交流の最後の方では、参観していた他校の先生方やALT（外国語助手）とも物怖じすることなく積極的に交流する姿が見られました。

授業後に行われた事後交流では、参観した先生方から、「英語で指示をした後に日本語の補足があり、子ども達は活動に対して迷うことなく、集中して取り組むことができていた。」「複数形の表現について途中で指示があったが、スムーズに表現することができており、日常の学習の積み重



授業後のディスカッションの様子

今回の交流授業で意識されていたのは、授業の中で身に付けさせたい能力を、明確に示すことと（学習課題）、定着させるための必要なアクティビティー（体験的学習）を丁寧に取り入れていくこと、単語の発音だけではなくスペル指導（書き方指導）を授業に位置づけていくことでした。

市内に配置されているALT（外国語助手）を、より効果的に活用していくためには、授業内での担任との役割分担が明確化されることが大切になってきます。「どの段階で」、「どんな目的を持ち」、「どんな支援方法でALT（外国語助手）を活用するか」、連携を図りながら進めていくことがポイントになってきますが、今回の交流授業は手本となる実践紹介となりました。

江別市初任研修の実施について

10月23日（木）に江別市が独自に主催する初任研修（R3、4、5年度 江別市新採用教職員対象30名）が実施されました。今回の企画は5月に実施された初任研修の第2期研修で、第1期研修と同様に、同期の教職員が交流を持ち、連携を深める関係性を築いていくことを目的に実施されました。

研修は2部構成で実施され、第一部では講師の江別市教育委員会指導主事：吉田光岐氏から、「子どもの特性と学習指導・生徒指導」について講話が持たれ、学び方には、人それぞれにあった学び方があり（大きく分けると3つのタイプ：①視覚優位型、②言語優位型、③聴覚優位型）、それを認知特性ということをお教えいただきました。これから学校教育で求められる支援方法として「個別最適な学び」が注目されていますが、個に応じた認知特性を生かした支援は、これを具現化させていくために必然な手立てであり、実践を進めていく上で、大切にしていって欲しいと感じる講話になりました。

研修の第二部では、グループ討議が行われ、「前期の成果」「後期への課題」の2つのテーマをもとにこれまでの実践についての意見交流がもたれていきました。協議の最後には、全体での交流が行われ、これからの実践に向けての視点が話されるなど、目標を共有し研修を終えることができました。

研修会の最後に、ストレスをためないためには、自分の思っていることを、言葉にして伝えること。言葉にはプラスになる発言も、マイナスになる発言もあるが、何でも気軽に話せる仲間を作りたい。そんな仲間作りの研修になればいいと、まとめられた研修となりました。



第二部でグループ協議を行う受講者の様子

ねを感じた。」「学習内容の量が多く消化できるのかなと思ったが、テンポが良く計画通りに進めることができていた。」「カードゲームにアルファベットを意識させた活動（書き方指導の位置づけ）を入れている点が参考になった。」「子ども達の学習に対する充実感を高めさせるために、後半の交流時間をもう少し確保できると良かった。」など、高い評価を得る協議となりました。